

鳥取大学医学部保健学科広報 アレスコ

ALESCO

No.24

February 2026

アレスコ【ALESCO】とは古代ラテン語で

「成長する、発展する」という意味です。

INDEX

- 02… 写真で綴るキャンパスライフ
- 04… 医学部長挨拶
- 05… 保健学科長挨拶
- 06… 卒業生だより
 - 助産師として活躍する卒業生
 - 臨床検査技師として活躍する卒業生
- 07… 看護学専攻 各講座のトピックス
- 09… 検査技術科学専攻 各講座のトピックス
- 10… 認知症予防学講座のトピックス
 - 認知症予防学講座の活動紹介
- 10… 学術・研究・地域貢献活動
 - とっとりのブランドを守る：白ねぎ作業改善プロジェクト
 - 思春期ピアカウンセラー®による活動
 - 米子東高等学校 SSH「国内研修」を実施しました
- 12… 大学院生の研究紹介
- 13… 新任・退職教員からのメッセージ
- 15… 令和7年度卒業研究演題一覧
- 16… 令和8年度学級委員
- 16… 令和6年度後援会事業報告
- 16… 令和7年度後援会役員名簿
- 16… 令和7年度後援会事業計画
- 16… 編集後記



写真で綴るキャンパスライフ

～保健学科の学生たちを学年ごとに紹介します～

看護1年生



生活援助論演習Ⅰ 手洗いの演習



生活援助論演習Ⅰ ガウン着用法の演習



生活援助論演習Ⅰ 安全な患者移送法の演習

看護2年生



健康障害と看護
VR・シミュレーション演習



看護実践過程基盤実習 発表会



看護実践過程基盤実習
公民館でのインタビュー

看護3年生



クリティカルケア看護実践過程演習
認定看護師による周術期看護の講義



生活援助論演習Ⅳ 新生児の哺乳



治療援助論演習Ⅱ
術後観察：12誘導心電図の装着

看護4年生



看護学研究法Ⅱ 研究発表



助産診断・技術学演習Ⅱ 分娩介助技術



包括的支援統合演習
ポスター発表
ポスター賞受賞

検査1年生



新入生オリエンテーション

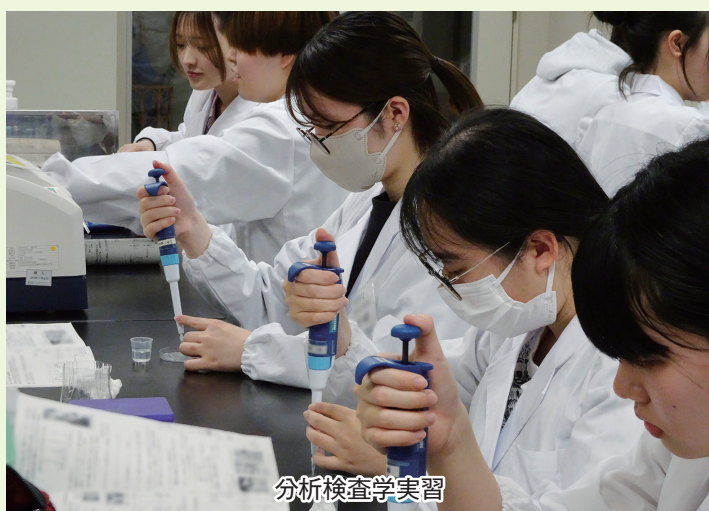


化学実験演習

検査2年生



生理情報検査学実習



分析検査学実習

検査3年生



輸血・移植検査学実習



病理組織細胞学実習

検査4年生



課題研究発表会



国家試験対策セミナー

医学部長挨拶

医学部長 永島 英樹



鳥取大学医学部保健学科は、1975年に創設された鳥取大学医療技術短期大学部（3年制）を1999年に改組して設置されました。本学科には看護学専攻と医療技術科学専攻の2専攻があり、看護師、保健師、助産師、臨床検査技師の国家試験に合格すれば、それぞれ医療・保健・福祉の現場へと羽ばたくことになります。

世界第1位の長寿国である日本のなかでも、鳥取県は超高齢化が進む地域の一つであり、私たちは世界の最先端と言える高齢者医療に日々取り組んでいます。多くの国々でも高齢化は避けられない課題と認識されており、日本の医療モデルへの関心が高まっています。この点からも、皆さんには将来国際的な貢献を果たす可能性が十分に秘められていると言えるでしょう。

さて、AIの導入やDXの推進により医療現場の業務は省力化され、患者さんと向き合う時間は増えるはずです。その際に求められるのは、他者の気持ちを理解し支えることのできる「人間力」です。多職種が協働するチーム医療においても、思いやりの姿勢と確かなコミュニケーション能力は不可欠です。学生時代には、同期、先輩・後輩、地域の方々との交流を通じて、人間力を磨くことも大切です。

医療職は、大学で学修した知識を現場で深く考え、実践に移すことを絶えず繰り返していく専門職です。鳥取大学の理念である「知と実践の融合」を胸に、それぞれの夢に向かって歩いていかれることを心より願っています。

保健学科長挨拶

保健学科の底力

保健学科長 加藤 雅彦



わが国では、2025年にいわゆる団塊の世代が後期高齢者となり、少子高齢化が一層加速すると予測されています。総人口の減少が続くなか、65歳以上の高齢者が占める割合は年々増加し、15歳から64歳までの生産年齢人口を圧迫する構造となっています。その結果、限られた就労人口で多くの高齢者を支える社会体制が求められるようになり、医療および介護の需要はますます増大しています。一方で、就労人口の減少は医療従事者の確保にも影響を及ぼし、地域包括ケアシステムの維持・強化は喫緊の課題となっています。

2025年には、医師の働き方改革が本格的に始動し、タスクシフトおよびタスクシェアの推進が進められています。これは、医師の過重労働を是正し、より質の高い医療を実現することを目的とした施策ですが、現場においては依然として課題も多く残されています。こうした状況を打開するためには、医療従事者数の増加のみならず、医療者と患者の双方における意識の変革が不可欠です。すなわち、医療者は自らの専門性を最大限に発揮し、職種を超えた連携のもとにチーム医療を推進することが求められます。また、患者も医師のみに依存するのではなく、各専門職を信頼し、主体的に医療やケアに参画する姿勢が重要です。医療とは、誰かに委ねるものではなく、社会全体が自覚と責任をもって支える営みであるといえます。

こうした社会的要請に応えるためには、高度な専門性と豊かな人間性を併せ持つ医療人の育成が不可欠です。鳥取大学医学部保健学科は、看護学専攻および検査技術科学専攻の二専攻で構成されており、これまで地域社会を支える多くの優秀な医療専門職を輩出してまいりました。

看護学専攻では、看護師のみならず保健師・助産師の国家試験受験資格を取得できる統合的カリキュラムを整備し、デジタル教材やVR技術を活用した先進的かつ実践的な教育を推進しています。

検査技術科学専攻では、生体制御学講座と病態検査学講座の連携のもと、基礎から臨床に至る体系的教育を実施しています。さらに、2025年度からは新カリキュラムを導入し、臨地実習に先立って臨床技能と態度を評価する客観的臨床能力試験（OSCE）を実施するなど、教育の質的向上を図っています。

本学科では、医療を取り巻く環境の変化に対応しながら、教育内容および教育方法の不断の見直しを行い、「地域に貢献できる医療専門職の育成」という使命のもとに取り組みを進めています。学生一人ひとりが自らの専門性に誇りを持ち、将来、医療の現場で確かな実践力を発揮してくれることを心より期待しております。

また、保健学科には学部教育の延長として大学院教育も設けており、社会人学生を含め、多様な背景をもつ方々に研究の機会を提供しています。高度専門職業人としての成長を志す方々に、より深い学びと探究の場を開いております。

今後とも、鳥取大学医学部保健学科は、教育・研究・地域貢献の三本柱のもと、人と社会に寄与する医療人の育成に努めてまいります。引き続き、皆様の温かいご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

卒業生だより

助産師として活躍する卒業生

高垣 磨緒 さん 看護学専攻 第20期生

鳥取県立中央病院に勤務して、もうすぐ4年目を迎えようとしています。入職時より産婦人科混合病棟において、主に周産期業務に従事しています。学生時代から志していた助産師として、新たな命の誕生の瞬間に立ち合えることが嬉しいですし、患者・家族の安心した顔や喜ぶ姿に心が温かくなります。一方で、辛い経験をされる方がいたり、母子の安全のために一刻を争う瞬間があったり、複雑な管理が求められたりと、緊張感やプレッシャー、関わりの難しさ等、臨床のリアルも痛感しています。

昨今においては、プレコンセプションケアや産後ケア等、周産期に通ずるヘルスケアの需要や必要性も高まっているように感じます。女性と女性を取り巻く人々のライフステージ全般に関わりのある助産師の活動の幅広さを感じ、私自身も今後どのようなスペシャリストを目指していきたいのか、模索中です。大変ではありますが、経験し、学ぶほど魅力的な職業だと感じていますので、今後も頑張っていきたいと思っています。



卒業生だより

臨床検査技師として活躍する卒業生

安東 梨紗子 さん 検査技術科学専攻 第17期生

はじめまして。第17期生の安東梨紗子と申します。卒業後は地元である兵庫県の関西労災病院に就職し、入職してから現在まで病理検査業務に携わっています。学生の頃から組織診や細胞診に興味があり、入職してからは自分の学びたい事を深められる楽しさと、病理検査という最終確定診断に関わる責任の重さに伴ったやりがいをひしひしと感じながら日々邁進しています。

入職3年目に細胞検査士の資格も取得し現在は細胞診業務にも従事しています。子宮や気管支、口腔の擦過細胞診や唾液腺・甲状腺・リンパ節・膵臓の穿刺吸引細胞診など、人間の様々な細胞を顕微鏡でみるのはとても面白くて奥深いです。判定に悩む症例に出会った時は自分の実力不足を痛感し、もっと頑張ろう!と気持ちが奮い立たせられます。これからも楽しみながら知識や技術を深められるよう励んで参ります。



看護学専攻紹介 各講座のトピックス

基礎看護学講座

◆看護学専攻1年次「コミュニケーション法」

山本 陽子

「コミュニケーション法」は必須科目として1年次後期に開講しています。看護では対象者への理解を深化させ、効果的な関わり（看護実践、価値ある変化）を提供します。看護師と対象者の相互作用を通じて援助的関係が構築されるため、看護師が対象者やその家族、周囲の人々とコミュニケーションを図ることは欠かせません。

講義の中では、身近な題材をもとにコミュニケーションについて考え、アイスブレイクを組み込み、体験的に楽しく学んでいけるよう工夫しています。またコミュニケーションについて学ぶ際、自らの心や感情と向き合うことを忘れないよう、心理学的な側面からも考察しています。



成人・老人看護学講座

◆国際保健医療論の紹介

谷村 千華

当講座は国際保健医療論を担当し、世界の健康課題を多角的に学べるよう幅広い内容を扱っています。途上国の医療環境や国境なき医師団の活動、海外への災害派遣、生活習慣病予防の活動内容などを通して、地域や国を越えて人々の健康を支える取り組みを理解します。特に、2015年から継続するフィリピンでの糖尿病予防プロジェクトを題材に、患者同士が支え合うピアサポートシステムやピアリーダー育成の実践を紹介し、糖尿病とフレイル予防を結びつけた活動も学びます。授業では、学生が途上国における糖尿病予防支援を考えるとともに、ピアリーダーからのメッセージ動画を通して現地の声に触れ、国際的視点から健康課題とその解決策を考える力を育てています。



地域・精神看護学講座

◆学生によるまちの保健室

地域・在宅看護学分野のゼミでは、4年次学生が、認知症の人と家族の会鳥取県支部のチームオレンジの会に参加させていただきます。チームオレンジのみなさんは、認知症があってもなくても、お互いが必要な時に助け合おうという仲間のみなさんです。チームオレンジのみなさんの依頼で、学生による「まちの保健室」を、年に1回、実施しています。学生は血压測定などをさせていただきながら、皆さんの健康の秘訣や楽しみにされていること、最近あった出来事など、様々なお話をうかがいます。チームオレンジのみなさんがニコニコワイワイされていて、いつもこちらが元気をいただいています。

仁科 祐子



母性・小児家族看護学講座

◆SRHRについて考える授業の紹介

Sexual and Reproductive Health and Rights（性と生殖に関する健康と権利）という言葉をご存じでしょうか。これは、思春期や更年期、老年期を含む一生を通して幅広く性と生殖の健康を保証する考えで、看護を行う上で、人の権利として非常に重要な要素となります。2年次のリプロダクティブヘルスケア論では、各年代における性や生殖に関する課題、性の多様性と医療における課題、病気・治療と生殖に関することなどを学びます。知識習得だけでなく、学生自身が将来に向けて自身の健康を守ることや他者の健康を支援する方法について、健康教育の受講を体験したり、グループワークで考えることで学びを深めています。

大島 麻美



検査技術科学専攻紹介 各講座のトピックス

生体制御学講座

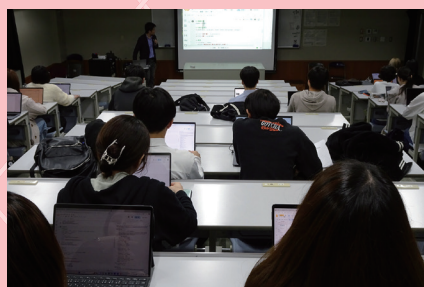
◆未来の臨床検査を支える解析スキル

岩田 浩明

臨床検査の現場では、検査機器の自動化やデータ解析の高度化が急速に進んでおり、近年はAI（人工知能）やプログラミングの知識がますます重要になっています。3年生前期の医療データ解析管理学では、臨床検査技師として必要な「データを正しく扱い、活用する力」を身につけることを目指します。

Pythonを用いたデータ解析の基本操作から始め、回帰分析や相関係数など、臨床データの解釈に欠かせない分析手法を学びます。また、臨床検査の品質管理に直結する精度管理の考え方も扱い、演習を通じて現場で役立つ統計的アプローチを身につけます。

これからの臨床検査技師には「検査を実施する技術」に加え、「データを読み解く力」や「デジタル技術を使いこなす力」が求められます。ぜひこの講義を通じて、新しい視点や興味を広げ、未来の医療を支えるスキルと一緒に身につけましょう。



病態検査学講座

◆病原体検査学実習の紹介

伊藤 大輔

微生物検査は、感染症の早期診断や適切な治療薬の選択、そして院内の感染予防に欠かせない重要な役割を担っています。3年生前期の病原体検査学実習では、1年生後期から3年生前期までの演習や講義で積み重ねてきた微生物に関する知識をもとに、基本的な検査技術の習得を目指します。臨床現場で行われている細菌の同定に必要な培養や染色、薬剤感受性試験などを実際に体験し、基礎的な技術と判断力を身につけていきます。また、4年生の臨床実習前には本学独自の客観的臨床能力試験（OSCE）を実施し、学生の理解度や技術の到達度を評価することで、これまでの学びを確かな実践力へとつなげます。



認知症予防学講座のトピックス

◆認知症予防学講座の活動紹介

認知症予防学講座 浦上 克哉

2025年度は新たに早稲田大学の公開講座で「認知症予防」の講義を行いました。厚生労働省の「共生に向けた認知症早期発見・早期介入実証プロジェクト研究」を昨年は琴浦町で実施しましたが、今年度は北栄町で実施中です。写真1は嗅覚機能検査（ニンテスト）を、写真2は認知機能検査（MSP）を実施している風景です。日本医学検査学会が大阪国際会議場で開催され特別講演「超高齢先進県から認知症の情報発信」をさせていただきました。2017年から普及・啓発に取り組んでいる「とっとり方式認知症予防プログラム」を台湾でも実施して頂くこととなり覚書締結式が行われました（写真3、台湾の林理事長、鳥取県の平井知事と浦上）。鳥取発の認知症予防が世界へ広がっております。



琴浦町での検査風景



嗅覚機能検査実施風景(写真1)



も忘れ相談プログラム(MSP実施風景、写真2)



「とっとり方式認知症予防プログラム」覚書締結式(写真3)

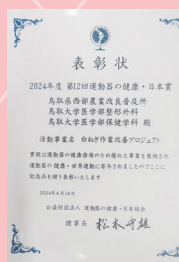
学術・研究・地域貢献活動

ととりのブランドを守る： 白ねぎ作業改善プロジェクト

基礎看護学講座 深田 美香

鳥取県は全国でも有数の白ねぎ産地で、全国シェアは第10位(2023年)です。

「白ねぎ作業改善プロジェクト」は白ねぎ生産者の54%が腰痛に悩んでいる状況を機に本学医学部、鳥取県西部総合事務所農林局西部農業改良普及所、生産者がチームを組んで、2018年に発足しました。作業状況、環境を調査し、問題となる作業や環境を特定し、農具の改良、開発を行いました。同時に、生産者に対してセミナー開催(のべ114名参加)や腰痛予防体操を考案し、「腰ラクラク白ねぎ体操」動画を作成しました。県やJA鳥取西部の協力を得て動画をHPに掲載(<https://www.pref.tottori.lg.jp/295404.htm>)、パンフレットを生産者に配布して予防対策(現地での白ねぎ体操実演指導153回、のべ955名参加)を充実させてきました。このような取り組みにより、2024年4月に「運動器の健康・日本賞」を受賞しました。腰痛という課題に対し生産者、大学、行政が連携して一体となり、その解決にあたった点が評価され受賞となりました。



思春期ピアカウンセラー[®]による活動

母性・小児家族看護学講座
鈴木 康江／大島 麻美

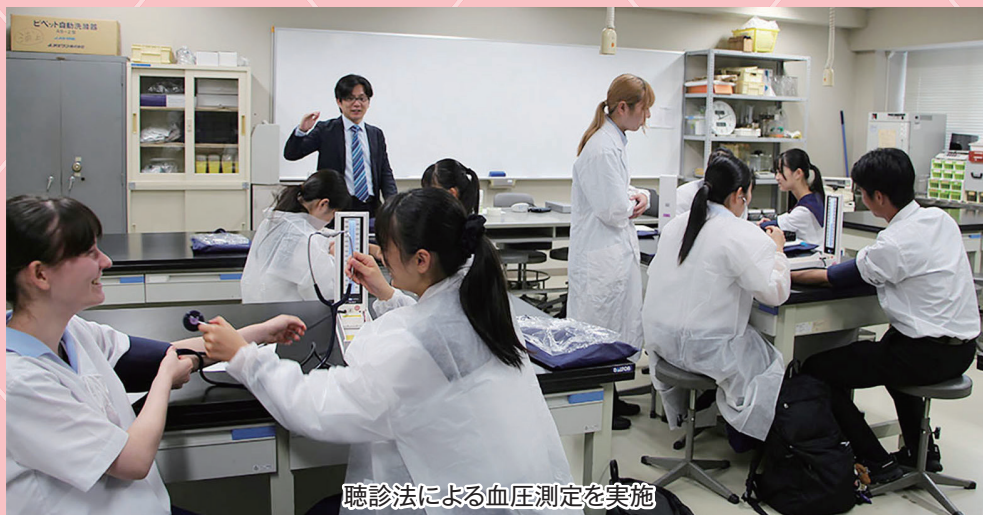
鳥取県の思春期保健の一旦として、平成16年から思春期ピアカウンセラー[®]（通称ピアっ子）の養成を行い、鳥取県内で20年以上にわたり活動を行っています。大学生であるピアっ子が「Peer＝同世代の仲間」として、鳥取県内の中学校や高校に出向いて、性と生に関するピアエデュケーション（仲間教育）を行ったり、行政の方と一緒に、デートDV予防啓発や性感染症予防啓発、エイズデー街頭キャンペーンなどを行い、若い世代の視点から様々な呼びかけを行っています。これからも、ピアっ子とともに鳥取県の若者の力になれるよう活動していきたいと思えます。



米子東高等学校SSH「国内研修」を実施しました

生体制御学講座 吉村 武

9月8日に米子東高等学校スーパーサイエンスハイスクール（SSH）による国内研修を実施し、高校1・2年生が研修に参加しました。本研修は、実際の研究活動の一端を体験することで、探究活動への動機付けとイメージ作りを行うことを目的としています。コロナ音聴取による血圧測定法の体験をしてもらいました。最初の講義において、音で血圧を測ると説明した際には半信半疑だった高校生達も、聴診器からコロナ音が聞こえた時には笑顔になり、引率の先生も含めて全員が聴診法による血圧測定の実習を成功させました。本研修が進路選択の一助になれば幸いです。



聴診法による血圧測定を実施

大学院生の研究紹介

行 動 力

医科学系研究科保健学専攻博士後期課程3年
廣田 颯香

大学で教員をしながら院生として学んでいます。研究は「スマートフォンが褥婦の睡眠や疲労感に与える影響」をテーマに取り組んでいます。仕事と学業を両立させることはなかなか難しく、苦戦しながらの毎日です。その中で、やはり大切なのは行動力だと日々実感しています。ほんの少しでも毎日進め続けるのはシンプルだけど、欠かせないことだと思います。写真は友人の子どもです。赤ちゃんには不思議な魅力がたくさんです。こんな愛おしい赤ちゃん、自分の命をかけていのちを生み育むお母さん、チームを組んで母子を守るご家族に対して、あたたかい支援となるような研究をしていきたいです。



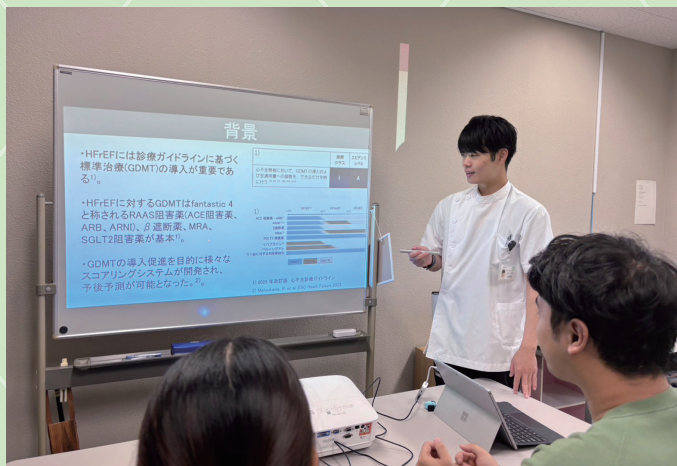
大学院生の強み

医科学専攻博士前期課程2年
池田 卓飛

私は生理研究室に所属しており、心不全の薬剤の研究をしています。薬剤の量で予後にどう影響するかを検討し、週に1度のミーティングで先生方と議論しています。

また、先日はこの研究を心不全学会で発表することができました。

私の研究室では実習の手伝いをする Teaching Assistant をしており、3年生に生理検査を教えています。実習を通して私自身も必死に勉強するので、知識と検査技術が向上しました。また、後輩に指導をするため、コミュニケーション能力の向上と、教員側としての立場を体験する貴重な体験をすることができます。大学院での経験は就活する上でとても役に立つので大学院に行くことをおススメします。



新任・退職教員からのメッセージ

退任のご挨拶

基礎看護学講座 安藤 泰至

私は1996年4月に鳥取大学医学部に、その4年後に保健学科に着任し、生命倫理・死生学などの講義と研究を行ってきました。アツという間に30年が経ち、このたび定年退職を迎えることになりました。文学部・文学研究科出身の私には、医学部という環境はまったく初めてで、当初はとまどうばかりでしたが、それでもなんとか「医療者教育において、医師や看護師などの医療専門職ではない教員が果たすべき役割はなにか」を常に考えながらここまで懸命に課題に取り組んできました。そうして学生教育をはじめ、研究（著書や論文）やメディアでの社会的発言などにおいても、それなりの成果をあげることができたのは、ひとえに熱心な学生たちや、のびのびと自由に働かせてくださった同僚の先生方、職員の方々のおかげだと思っています。どうもありがとうございました。今後は主にピアニストとして、第二の人生を歩む予定であります。



新任教員紹介

基礎看護学講座 元井 希

2025年10月より保健学科基礎看護学講座に着任いたしました元井希と申します。

私は本学を卒業した後、鳥取大学医学部附属病院の2B病棟で、看護師として14年半勤務し、泌尿器科、婦人科の患者さんの看護を行ってまいりました。両診療科とも悪性腫瘍の患者さんに関わる機会が多かったこともあり、近年は院内の遺伝性腫瘍診療チームやがんゲノム医療センターのメンバーとして、日々の診療に携わってまいりました。また、認定遺伝カウンセラーの資格を得るために、研鑽を続けております。

今後は本学の教員として、臨床で得てきた自らの学びを活かし、学生の学びを支えていきたいと思っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。



新任教員紹介

成人・老人看護学講座 佐伯 由美

令和7年9月より医学部保健学科成人・老人看護学講座に着任いたしました、佐伯由美と申します。私は、鳥取大学医学部附属病院の整形外科領域で18年間勤務し、看護者として患者やご家族の多様な生活や価値観を理解し、対象者を見据えた、「その人らしさ」を支える看護を大切にしてきました。研究では、地域の健康寿命の延伸の一助になることを目指し、骨粗鬆症の予防、治療率や治療継続率の向上等について取り組んでおります。これから、これまでの看護・研究での経験を活かし、学生が主体的に問いを立て、多様な価値観に寄り添う姿勢を備えた学生の育成に努めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。



新任教員紹介

地域・精神看護学講座 兵頭 由季

令和7年4月より、保健学科地域・精神看護学講座に着任いたしました、兵頭由季と申します。私は、病院で看護師として2年間勤務した後、行政保健師となり、米子市役所で16年間、成人保健、母子保健、障がい者支援、フレイル対策、職員健康管理などの業務に携わりました。その中で、多くの住民の皆さまや関係機関の方々、そして共に働いた上司や同僚から、学びや温かい支援をいただきました。保健師という仕事の奥深さと楽しさを、日々実感しながら歩んでこられたことは、私にとって大きな財産です。

これまで、行政保健師としての実務の場を離れることはあまり想像していませんでしたが、このたびご縁をいただき、教育の場に立たせていただくこととなりました。教員としては未熟ですが、これまでの経験を活かし、学生の皆さんに保健師の魅力をお伝えすること、共に学び成長していけることを楽しみにしております。よろしくお願い致します。



新任教員紹介

病態検査学講座 伊藤 大輔

令和7年4月より、鳥取大学医学部保健学科病態検査学講座に着任いたしました伊藤大輔と申します。これまで鳥取大学医学部医学科感染制御学講座医動物学分野にて寄生虫学および衛生動物学の教育と研究に携わってまいりました。教育面では、1年次の鳥取キャンパスにおける生物学、ならびに2～4年次の米子キャンパスにおける微生物学および医動物学の講義と実習を担当しております。研究面では、マラリアの新規ワクチン、治療薬、診断法の開発を目指した基礎研究に加え、衛生動物の一つであるマダニが媒介する細菌・ウイルス感染症の調査研究を進めております。今後は教育と研究の両面から、感染症を見逃さず、自ら考えて行動でき、さらに柔軟な判断力と適応力を備えた臨床検査技師の育成に尽力してまいりたいと思っております。引き続きご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。



令和7年度 卒業研究演題一覧

検査技術科学専攻

1. 末梢血細胞画像 AI 分類モデル構築に必要な最小画像枚数の検討
2. Linear interaction energy 法による結合自由エネルギー計算：FabI- リガンド複合体を対象として
3. 特性を考慮した生活支援の在り方についての検討
4. 生後マウスの脳におけるオリゴデンドロサイトの分化時期について
5. 大学生の食防災行動に関する実態と課題～公衆栄養に関する調査と分析～
6. 神経軸索の根元の構造を制御する分子機構
7. 高吸収ポリマーによる新規体腔液細胞診技術の開発
8. カフェインが睡眠時血圧に及ぼす影響
9. 25- ヒドロキシコレステロールによる HDL 形成抑制のメカニズム
10. PCR 法による魚類の遺伝子多型解析
11. EXP2 を標的とした新規抗マラリア薬スクリーニング系の構築
12. 認知機能低下に及ぼす感覚機能と生活習慣の検討能と生活習慣の関連

看護学専攻

地域で生活する子ども・子育て世代への支援

1. 月経周期症状に対する対処行動への女子高校生の認識
2. 生後 1 か月と 3 ～ 6 か月児の父親の EPDS スコアの推移に影響する要因
3. 育児における乳幼児のデジタルデバイス使用への認識は親の年代によって異なるのか
4. 1 型糖尿病をもつ子どもの同胞がきょうだい役割を獲得していくプロセス
5. 母子分離を背景とした虐待の実態
6. 「きょうだい」の誕生後の家族の再編ー第 1 子の変化ー

クリティカルな状況にある医療施設入院中の対象への支援

1. 一般病棟に勤務する看護師のがん疼痛看護ケア実践の関連要因の検討
2. 消化管ストーマを造設した若年成人の心理的適応過程
3. 心臓血管手術後の ICU 入室患者が経験するストレス
4. 新卒看護師の性格特性が職場適応と離職傾向に与える影響
5. 認知症高齢者の“その人らしさ”を尊重したケアにおける看護師の葛藤とその対処
～大学病院勤務看護師を対象とした質的研究～
6. 大学病院に勤務する救急看護師における、突然の死を迎える患者の家族へのケアの実践状況と性格特性との関連

健康レベルの変化により生活の場がかわる対象への支援

1. 労働と看護の質向上のためのデータベースを活用した転倒・転落発生率の経年変化と要因分析
2. カレーは加齢を防げるか？
ー特養入所高齢者を対象としたターメリック含有食品と認知機能の関連に関するランダム化クロスオーバートライアルー

疾病や障がいと共に社会生活を送る対象者への支援

1. 2 型糖尿病患者の自己効力感を高める退院支援～非ランダム化比較研究～
2. 児童思春期精神科病棟における ASD 児との信頼関係促進のための看護師の意図的な関わりの実際
3. 精神科看護師の義務感と自己肯定感、予期不安の関連
4. 女性アルコール依存症患者への効果的支援について

地域で生活する人々の保健予防活動の支援

1. 鳥取県市町村におけるがん検診受診率の向上に向けた保健師の工夫に関する質的調査
2. 活動歴が 3 年未満の高齢者サロンの運営に携わるボランティアの心理的負担感

在宅で療養する対象への支援

1. 訪問看護ステーションにおける BCP の実態と課題についての全国調査研究

令和8年度学級委員

看護学専攻 学級委員

入学年度	学年	氏名	所属講座
令和8年度	1年生	片岡 英幸 教授 / 大庭 桂子 講師	成人・老人看護学
令和7年度	2年生	宮本まゆみ 教授 / 南前 直都 助教	基礎看護学
令和6年度	3年生	高間さとみ 講師 / 安部 由紀 助教	地域・精神看護学
令和5年度	4年生	山崎 歩 教授 / 金山 俊介 講師	母性・小児家族看護学

検査技術科学専攻 学級委員

入学年度	学年	氏名	所属講座
令和8年度	1年生	杉原 誉明 教授 / 下廣 寿 講師	病態検査学
令和7年度	2年生	岩田 浩明 教授 / 河月 稔 准教授	生体制御学
令和6年度	3年生	中川真由美 准教授 / 高田美也子 助教	病態検査学
令和5年度	4年生	森 徹自 教授 / 上田 悦子 講師	生体制御学

※両専攻とも1年生については、上記保健学科教員以外に、湖山キャンパスの教員数名が学級委員として学生の指導・相談の任にあっています。

令和6年度医学部保健学科後援会事業報告

1. 教育助成

- 入学式関連
 - ・入学式
 - ・新入生オリエンテーション（支出なし）
 - ・大学入門ゼミ（支出なし）
- 大学説明会関連
 - ・オープンキャンパス
- 教育関連
 - ・優秀学生表彰
 - ・看護学専攻・検査技術科学専攻へ助成

2. 国家試験対策

- ・看護師等国家試験対策模試
- ・臨床検査技師国家試験対策模試

3. 就職対策

- ・教員による病院等の就職先への訪問

4. 医学部国際交流助成

- ・国際交流協定校との交流

5. 文化行事援助

- ・錦祭

6. 広報経費

- ・保健学科広報「アレスコNo.23」発行
- ・ホームページ充実費

7. 後援会運営

- ・後援会役員会関連経費

令和7年度医学部保健学科後援会事業計画

1. 教育助成

- 入学式関連
 - ・入学式
 - ・新入生オリエンテーション
 - ・大学入門ゼミ
- 大学説明会関連
 - ・オープンキャンパス
- 教育関連
 - ・2年次学生と教員との懇談会
 - ・優秀学生表彰
 - ・看護学専攻・検査技術科学専攻へ助成

2. 国家試験対策

- ・看護師等国家試験対策模試
- ・臨床検査技師国家試験対策模試

3. 就職対策

- ・教員による病院等の就職先への訪問

4. 医学部国際交流助成

- ・国際交流協定校との交流

5. 文化行事援助

- ・錦祭

6. 広報経費

- ・保健学科広報「アレスコNo.24」発行

7. 後援会運営

- ・後援会役員会関連経費

令和7年度 鳥取大学医学部後援会役員

役職名	氏名	役職指定	学生年次
会長	十河 卓史		医学5年
副会長	永島 英樹	医学部長	
副会長	松岡 浩一		生命4年
副会長	若槻 澄子		検査4年
理事	谷口 文紀		医学2年
理事	竹本 光恵		医学1年
理事	前垣 義弘	医学科長	
理事	小村美都恵		生命1年
理事	久郷 裕之	生命科学科長	
理事	井上 菜穂		看護1年
理事	皆吉 啓子		看護1年
理事	加藤 雅彦	保健学科長	
監事	小椋 崇喜		医学5年
監事	井上 千恵		生命1年
監事	前田 陽子		看護4年
会計	重松 良昭	学務課長	

編集後記

鳥取大学医学部保健学科広報誌アレスコ（ALESCO）第24号をご覧いただき、誠にありがとうございました。日々の取り組みが皆さまの心に響き、関心を持っていただければ幸いです。今号では、保健学科の卒業生の「今」と教員の「想い」をご紹介しますとともに、医学部長・保健学科長からのご挨拶を通じて本学科が大切にしている教育・研究の精神をお届けできたことを大変光栄に思っております。

発行にあたり、ご協力いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。これからも本誌が、皆さまにとって身近な存在として長く愛され続けることを願っております。

（保健学科広報委員 高村 歩美）